

森と水の物語

草木が水を吸うように、草木たち人も、動物も同じ生命を天から授けられ、同じように天から授けられた水と飲ぶことで生きることが出来る。
生きているうちに、もっとも大切なものは水のひとつが水。
その水をたくえ、高み、みがか、森。
天から舞いおりた水の子どもが、豊かな森の土にしみ込んでいる日。
一滴のしずくとなり、谷川を下り、あるところでは泉となり、と
わき出て、はるかに長い水の旅を始める。

植付けた苗木は、簡単に成長することができない。
現代、もっとも深刻なのが、無教養による被害だ。
植えてから伐採できるまで、何十年ものあいだ、
愛着をこめて手入れを続けなければ、立派な
山にはならない。
植付、育成、伐採、流通、加工の長い
過程の中で、たくさんの人々が関わり、
時間と労力をかけて、村営は営ま
れている。

井ノ山から降り出された
草木はなほ冬まなごひ
のうちに相おふその程寒
くはなほカッデ一層く1.8mは
に組む。(0.15)程なごひ
合せて、川の口にかつちり
まうに上手にあいつて、りそ
下った。

流域に於ける5ヶ所の発電所
で電力を供給している。

利の上に生物が活動している。
 深利は、更に更に深い。
 果のペーヌで生物が生態系
 まで続けば、人間動物も
 し、その生物の至孫（
 まで）がなくなっている。
 生物、温暖化、森林破壊、
 汚染、乱獲、化学物質の
 今、自分たちが一人ひとりの
 生き方が、次の世代に大きな
 影響を与えている。

山を歩いている時に
ゴミ一つでも捨てるのは
山の神がよるころ。
逆にゴミをポイ捨て
あることで良心までも
捨ててしまうことになる

二度もない人生に
二匹のこゝろで
ふみこゝろに
いしこゝろに
どんぱにかよるこゝろ
ことだろ

落葉や落枝、動物の遺体などが土着生物やヤコロなどによつて分解されて土に還る。わが国にみえる落葉樹であるのに、100年の時間がかかるといわれる。

春の中に雨が降る。
その雨を林内雨と呼ぶ。
雨は草を伝へ樹幹を
なす森の土にしみこむ。
霧が蒸発してまた森の
中に降る雨は循環する。
数ある雨の中の一つと
数ある雨の中の一つと

目には見えにくい
工の中の生命を
キコふための器。バウザノなど
エミ生知は、森の中の
生命の命脈をひきとる
行方を探る。

日、御子

ばるといふ人体にひ害損
 之れている。

[illegible]

生體天皇が妙法蓮華を
鎮められたために現の
鎮を頂上に建てるに
信託がなされる。

自然の中の生き物は
季節の移り変わりと
体時計と正しく
季節が来るのを
花と咲かせ毛皮を

水しぶきの清涼感。

運賃に上りておられた。
周囲の新緑が、紅葉。
いくつもの要が、壁い
美しい。景観がつくれ
ている。
渚を数える単位は「渚」。
トノ、地、断崖の岩場も
タキ、タビ、などと呼ぶ。

近いほど直

はにうダリで美しい

舞川とは本流の流れとは
違ふ方向に流れる川。
香我美河手舞川と熊流川
といふ。平均部川とは並行
に21kmも北流ある。

壺の道

左谷相

拓

市井私見明義(一)吉川町の
かき集めていた。

山崎部へ馬の病に造や
を積んで往來して不道。

近いほど直

はにうダリで美しい



陸上から海に流れる水は、
アフリカが、南の海に流れる水は、
北の海に流れる水は、
大変な電気が、

スィクロロアスコフ
バもとで人々に
なれている。



山を歩いている
ゴミ一つで汚れる
山の神がよるこ
座にゴミをポイ
入るヤクザやい

捨ててしまふこと

想知つゝ、ふたりの生き物
の来れが、右々となつて
今自分たちから

影を写し、
生きたか、次の
影を写し、





2021-10-5
No. 114